

# 第5学年 音楽科学習指導案

日時 平成23年6月7日(火)  
場所 池田町立温知小学校 音楽室  
授業者 辻 知佳

## 1. 題材名 いろいろなひびきを味わおう

教材群 いつでもあの海は 作詞 佐田 和夫 作曲 長谷部 匡俊  
リボンのおどり (ラ バンバ) メキシコ民謡  
日本語訳 芙龍 秋子 編曲 原 由多加  
双頭のわしの旗の下に 作曲 J.F.ワグナー  
アイネ クライネ ナハトムジーク 第1楽章 作曲 モーツァルト

## 2. 題材の目標

- ・ 歌声や楽器が重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりすることができるようにする。
- ・ 音の特徴や音色の違いを生かして、全体の響きのバランスに気をつけながら、音の組み合わせを工夫して演奏することができるようにする。

## 3. 指導の立場

### (1) 題材について

この題材のねらいは、歌声やいろいろな楽器の音が重なり合うそれぞれの響きを味わったり、きれいな響きを求めて演奏の仕方を工夫したりする能力を高めることである。音楽は、様々な音や旋律が重なり合って構成されている。それらの響きを味わったり、きれいな響きを探究していくことは、音楽を「美しい」と感じたり、更に美しさを求めようとする美的情操を育てることに深く関わっている。

高学年は、響きに対する憧れを抱くと同時に、集団の中で協力して一つのものを作り上げることができるようになる。また、和音や和声に対する感覚が発達する段階である。

そこで、本題材では、「音の重なりや和声の響き」についての学習をすることを通して、全体の響きや特徴に気づく力、旋律の特徴や曲想を生かした工夫をし、思いや意図をもって表現する力を育てたい。

全体の響きや特徴に気づくために、音の重なりや互いの音を聴くことを大切にしたい。そこで、音楽を形づくっている要素の中「音の重なり」「強弱」「音色」「旋律」に重点を置き、これらの要素について課題意識をもって聴き取っていくことで、より美しい響きを表現できるようにしたい。

曲想を生かした工夫をするために、曲に対する理解を深め、自分の明確な考えや願いをもつことを大切にしたい。特に、主旋律と副次的な旋律とのバランスや、全体の中での働きを考えながら工夫していくことを大切にしたい。

## 4. 教材について

本時の教材「いつでもあの海は」は、海への思いを歌い上げた合唱曲教材である。題名から、海を思う美しい旋律を生かして、声を遠くまで響かせるような歌い方を身につけることができる。強弱記号の変化から、気持ちの高まりを表現していることに気付き、その歌い方を工夫することができる。また、前半部分は斉唱、後半部分は、対位的な二部合唱から和声的な二部合唱へと構成されているため、それ

らを通して、旋律の重なり方や違いを味わって表現を工夫するのに適した教材だと考えている。

学習にあたっては、歌詞の内容や曲想から曲に込められた思いを感じ取り、主旋律と副次的な旋律のバランスや重なり方に気をつけながら、旋律が重なり合う響きを工夫していく。

3フレーズ目は、対的な旋律の重なりによる合唱となるため、主旋律と下声部のバランスが悪くなりがちである。そこで、歌詞や旋律の重なり方に注目させ、互いの声をよく聴き合って、下声部が主旋律より強くなならないよう丁寧に歌うことを大切にしたい。また、練習の段階では、グループごとに聴き役を立て、音量的なバランスや強弱を確認することで、主旋律が生かされる表現の工夫をしていきたい。

## 5. 児童の実態

5年1組は、男子15名、女子16名の31人学級である。素直で落ち着いて授業に取り組むことができ、男女関係なく言われたことはすぐに取り入れて表現しようと歌ったり演奏したりする姿がみられる。歌声においては、4月当初から発声練習を位置づけ、歌う時の正しい姿勢や、響きのある声を目指して少しずつ地声から響きのある丸い声が出せるようになってきた。しかし、言われたことをそのまま表現することはできるが、曲想から感じたことや自分の思いをもって表現する力が弱い。また、二部合唱については、学年の歌「ビリーブ」で、副次的な旋律を学習しているが、お互いの旋律を聴き合い響きを味わうことまで至っていない。

このような児童の実態から、本教材では、①楽曲に対する理解を深めた上で、一人一人がどのように歌いたい自分の思いをもつこと ②主旋律と副次的な旋律の役割を考えて表現すること ③全体の響きの中で自分の声の響きや音色を互いによく聴くこと ④強弱やバランスを工夫して、曲想にあった表現をしていくこと に重点を置いて取り組み、今後の歌唱活動に意欲的に取り組めるようにしていきたい。

## 6. 研究テーマと関わって

一人一人が生き生きと表現し、豊かな感性が育つ指導の在り方  
(具体策)

- (1) 基礎的・基本的な能力が確実に身に付くための題材指導計画の作成
- (2) 個が生き、仲間と高め合う学習活動の工夫
- (3) 教師自らの音楽性と指導力を高める研修の充実

### (2) に関わって

①音楽に対する自分の思いをもち、言語活動を基盤として仲間に伝え合い、自己の表現意図をもって表現できる学習課程の工夫

初めに、どんな思いが込められた曲なのかなど情景をはっきりと浮かべ、それを話し合った上で自分がどう歌いたいかを一人一人に思いをもたせるようにした。その考えや思いを書き表すことで、学習していく中でその思いを持ち続けたり、仲間と創り上げる際に表現がしやすくなるようにした。それを踏まえ、グループ活動では、その思いを言葉として表現し、強弱や表現など具体的な工夫を仲間と話し合ったり試したりする活動を取り入れた。

②主体的に課題を解決するための効果的な指導・援助、学習形態、学習環境の工夫

本時では、より表現をよくするための工夫を教師が指示するのではなく、児童の意見から取り上げ視点をはっきりさせるようにした。その視点は、全体で話し合い、共通に認識することで、その後の活動で何をやるのかより明確になり児童が主体的に活動できると考えた。「つかむ」活動では、10人ずつの3つのグループに分けて活動することで、児童がより自分たちの歌声に意識をもって一人一人が主体的に歌声を聴き意見を出し合えるようにしたいと考えた。

7. 題材指導画

5年	5・6月	8時間	題材	いろいろなひびきを味わおう		教群	いつでもあの海は リボンのおどり 双頭のしの旗の下に アイネ クライネ ナハトムジーク		
題材 目標	・歌声や楽器の重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり想像豊かに聴いたりすることができる。 ・音の特徴や音色の違いを生かして、全体の響きのバランスに気をつかながら、音の組み合わせを工夫して演奏することができるようにする。			評価 基準	ア. 声や音が重なり合う美しい響きを求めて表現したり聴いたりする学習に主体的に取り組もうとしている。 イ. 旋律の重なり方の違いを生み出し響きのよさを感じ取り、美しい響きになるように表現の仕方を工夫している。 ウ. 旋律の重なり方が拍子の特徴を生かして、表現豊かな歌ったり楽器を演奏したりしている。 エ. いろいろな楽器の音が重なり合う響きや、曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴いている。				
時	1	2	3 (本時)	4	5	6	7	8	
教材 配列	いつでもあの海は		リボンのおどり (ラ ハンパ)			双頭のしの旗の下に アイネクライネナハトムジーク			
ね ら い	範唱から曲に対するイメージをもち、正しい音程で主旋律を歌うことができる。	正しい音程で副次的な旋律を歌い、二部合唱することができる。	対応的な旋律の重なりを生かして、2つの旋律の強弱や音量のバランスなどを工夫して表現することができる。	和声的な旋律の特徴を生かして、2つの重なり合いを工夫して表現することができる。	旋律が重なる響きを感じ取りながら各パートの特徴を掴むことができる。	各パートが重なり合う響きを感じ取り、軽快さを生かして演奏を工夫することができる。	曲全体のまとまりを考えながら繰り返しや組み合わせを工夫して演奏することができる。	吹奏楽や弦楽合奏の響きの違いを感じ取りながら、それぞれの響きを味わって聴くことができる。	
主 な 学 習 活 動	1. 波の音を聴き、海の情景を思い浮かべる。 2. 範唱を聴いて、曲のイメージをもつ。 <b>海のイメージをもって主旋律を正しい音程で歌おう。</b> 3. 主旋律を一齐で練習する。 4. 歌詞を読み、情景を話し合う。 5. 情景を思い浮かべながら歌う。	1. 全員で主旋律を歌う。 2. 副次的な旋律の範唱を聴く。 <b>副次的な旋律を正しい音程で歌い、きれいな二部合唱をしよう。</b> 3. 下声部を練習する。 4. 全員で主旋律と副旋律を重なり方に気を付けて歌い合わせる。 5. グループごとに合唱し、お互い聴き合ってアドベイスする。 6. 3・4フレーズ目の重なり方の違いに気付く。	1. 全員で二部合唱をする。 2. 対応的な旋律になっていることをおさえる。 <b>音量のバランスや強弱などを工夫して、3フレーズめを波が重なり合うように歌おう。</b> 3. どのような工夫をするとういめを話し合う。 4. 工夫した視点についてグループで練習する。 5. グループごとに発表する。 6. 全体で合唱し、自分たちの合唱を聴く。	1. 全員で二部合唱をする。 2. 前時の学習から和声的な旋律について特徴を掴む。 <b>音量のバランスや強弱などを工夫して、一つこけ合うように歌おう。</b> 3. どのように工夫をするとういめを話し合う。 4. 工夫した視点についてグループで練習する。 5. グループごとに発表する。 6. 1番と2番の歌詞の情景の違いを考えて歌う。 7. 全体で合唱する。	1. 曲を聴き、2拍子の軽快な感じを掴み、旋律を歌う。 <b>パートの特徴を掴み、パートに合う楽器を選ぼう。</b> 2. ③から⑦のパートの範奏を聴き、役割を知る。 3. 音記号やアクセントについて知る。 4. グループごとに自分に合ったパートを決め、それに合った楽器を適い練習する。 5. グループで合奏し、次への課題をもつ。	1. ①～⑦のパートを合わせた範奏を聴く。 <b>軽快で音が合うように、全パートを合わせよう。</b> 2. グループで練習する。 3. ぴったりと合う工夫を話し合うから練習する。 (バランス・出だし など) 4. グループごとにどんな工夫をしたか発表する。 5. 感想を話し合う。	1. 繰り返しや間奏の入った範奏を聴く。 <b>グループで考えた工夫を入れて演奏しよう。</b> 2. 工夫する方法を知る。 ・前奏や間奏を入れる。 ・繰り返しのパートの組み合わせを変える。 3. グループで練習をする。 4. 全体で発表会を行い、感想を交流する。	1. 吹奏楽と弦楽合奏の違いを知り、吹奏楽と弦楽合奏の響きの特徴を聴き取ろう。 2. 「双頭のしの旗の下に」を聴き、吹奏楽の響きの特徴を記入しながら味わう。 3. 「アイネ クライネ ナハトムジーク」を聴き、弦楽合奏の響きの特徴を記入しながら味わう。	
評価 基準	情景を思い浮かべながら、主旋律を正しい音程で歌っている。(ア)	旋律の違いに気づき、違う旋律をよく聴いて歌っている。(ア)	2つの旋律の音量的なバランスや強弱の工夫を生かして、歌うことができる。(ウ)	和声的な旋律の音量的なバランスを工夫を生かして歌うことができる。(ウ)	各パートに合う楽器を選んで、自分のパートを正しく演奏している。(ウ)	バランスや出だしなど演奏の工夫をし、各パートの重なり合う響きを感じ取っている。(イ)	繰り返しや組み合わせを工夫して演奏をしている。(イ)	楽曲のイメージを聴かませながら、楽器の組み合わせによる違いや特徴を感じ取って聴いている。(エ)	
他学年 他題材との 関連	第5学年 「赤い屋根の家」 歌詞に込められた気持ちを感じ取りながら歌う。	第5学年 「Believe」 声の重なりを感じて二部合唱する。	第5学年 「一輪の花」 2つの旋律を聴き合い、リコーダーを演奏する。		第4学年 「音のカーニバル」 音の組み合わせを工夫して演奏する。	第4学年 「とんひり」 木管楽器の音を聴き比べる。			

8. 本時の目標 (3/7)

対的な旋律の重なりを生かして、主旋律と副次的な旋律の強弱や音量のバランスなどを工夫して表現することができる。

9. 本時の展開

	ねらい	学 習 活 動	指 導 ・ 援 助
つ か む	○本時の学習への意欲をもつ。  ○本時の学習の方向付けをする。  ○課題を把握する。	1. 学習曲「いつでもあの海は」を歌う。 ・響きのある声を意識する。  2. 録音した自分たちの合唱と範唱を聴き、2つの旋律の音量的なバランスを聴く。  3. 本時の課題を作る。	・本時への方向付けとして、二部合唱で異なる旋律の音を聴くように意識させる。 ・4フレーズ目との違いに着目し、旋律の重なり方が対的な旋律になっていることを押さえる。
高 め る	○一斉で課題を追究する方法をつかむ。  ○グループで聴き合って練習し、ふさわしい表現を求めていこうとすることができる。	4. 「波が重なり合うような」表現にするための工夫について話し合う。 ・学習カードに考えを記入し、交流する。 ・波がきたようにフォルテで大きく出す。 ・どちらの旋律も大切だから、バランスを聴きながら同じ大きさで歌う。 ・波だからつなげるように、伸ばす音を拍の分だけしっかり伸ばす。  5. グループで歌を練習し、聴き合う。 ・3グループに分かれて練習する。 ・聞き役を立て、意見を出し合う。 <b>【聴く視点】</b> ①フォルテを意識して大きくなっているか。 ②どちらの旋律も同じようにバランスよく聴こえるか。 ③伸ばす音が拍の分だけ伸びているか。	・机間指導をし、本時につながる具体的な考えを持った子を意図的指名する。 ・工夫する視点が視覚的に分かるよう楽譜に書き込ませる。  ・視点について具体的にアドバイスできるように助言する。
ま と め る	○歌声に関心をもって聴き合い、仲間の良いところを認め合うことができる。  ○本時の成果を自分たちで体感し、次時への課題をもつことができる。	6. 本時の成果をグループごとに発表する。 ・どんなことをポイントにしたかを発表してから2～3フレーズを歌う。 ・他のグループはそれができていたかを聴く。  7. 全体で合唱し、録音した合唱を聴く。 ・導入で聴いた歌声と、どんなところが変わったか交流する。 ・学習カードに本時のふり返りを記入する。	○他のグループのよかったところを見つけ、「そのように歌いたい」という思いをもたせる。 ○次時の和声的な二部合唱への課題意識をもたせる。

音量のバランスや強弱などを工夫して、3フレーズめを波が重なり合うように歌おう。

**【評価基準】**  
2つの旋律の音量のバランスや強弱の工夫を生かして、歌うことができる。(ウ)